## 伊万里市男女協働参画懇話会　いまりプラザ
## 『ジェンダー ～男らしさ・女らしさ～』から考えること

最近は、カタカナ言葉が増えています。簡単に説明ができて便利な反面、中高年にはなかなか覚えづらいものがあります。多々ある中で、『ジェンダー』という言葉を聞いたことがある人も多いと思います。その意味は、『社会的・文化的に形成された性別』です。例えば、『男は外に出て働き、女は家庭を守って子どもを育てる』や、『男はたくましく、女は優しく』という考え方もジェンダーです。こういう固定観念はそろそろ一掃すべき時代ですが、これがなかなか難しいものです。

頭の中では、『男女は平等である』と理解していても、「お茶くみは女の仕事でしょう」や「力仕事に男が出て来ないで何を考えてるんだ」といった言葉もまだまだ耳にします。そんなとき、「そういう考え方は、偏見ですよ」と言うと、不思議な目で見られてしまうことがあります。さらには、「決して差別的な気持ちで言っていません。だって、男と女は違うでしょう」と反論されることもあります。

力仕事が得意な女性もいれば、お茶を入れるのが得意な男性もいます。性別で役割を固定するのではなく、それぞれの個性を生かすことができる社会になってほしいものです。そのためには、啓発活動がとても大切です。『その考えは、間違っている』と糾弾するつもりはありません。男女協働参画社会とはどのような社会であるべきか、みんなで考えましょう。

## 2014同和問題講演会
## 「自分の問題と捉えよう」

8月27日、市民センターで同和問題講演会が開催されました。これは、『差別のない明るいまちづくり』を推進し、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題への市民の正しい理解と認識を深めるため、8月の同和問題啓発強調月間の取り組みとして、市が毎年行っているものです。

今年は、TBSテレビ解説・専門記者室長の杉尾秀哉さんを講師に招き、『報道と人権』と題した講演が行われました。

杉尾さんは、記者時代や報道キャスターとして関わった事件に触れ、行きすぎた報道が新たな事件を誘発したり、人権侵害を招いた事例を取り上げながら、報道の社会的責任の大きさを指摘しました。

また、同和問題については、中学時代に体験した同和地区出身の友人との思い出を紹介しながら、「先入観や偏見が差別を生む。自分自身の問題として考えなければ解決しない」と訴え、「常に相手の立場になって考え、行動することが大切」と呼びかけました。

↑自らの体験をもとに、同和問題の解決を呼びかけた杉尾さん

## 郷土の文化財

史跡大川内鍋島窯跡①

### 鍋島焼とは

鍋島焼とは、江戸時代、佐賀藩鍋島家が将軍への献上をはじめ、幕閣、大名、公家への贈答用として作っていた、特別あつらえの最高級磁器のことです。当時、国内で最も高い技術を駆使して製作されて、正確無比に整えられた器形と、美しく丁寧に描かれた文様は、有田などで生産されていた磁器とは一線を画するものでした。

鍋島焼は、江戸時代の日本で唯一、藩が直接経営していた窯（藩窯）で生産された磁器製品です。生産開始当初は、有田の岩谷川内などで生産していましたが、その後、伊万里の大川内山に1650年代に移ったと考えられています。そして、明治4年の藩窯廃絶に至るまで、大川内山で約220年間生産され続けました。

江戸時代の鍋島焼は、今もその美しい姿で私たちを魅了し、その鍋島焼を作り上げた技術は、現代の大川内山の陶工たちに脈々と受け継がれています。

染付鶺鴒文皿

● 問合先　生涯学習課（☎㉓3186）